

事業概要書

事業名	「ふくしま」の10年を明日に繋ぐ伝承活動の継続を目指した、3・11 複合災害を語り伝える人材育成事業				
開始日	2022年1月1日	終了日	2022年12月31日	日数	365日
団体名	特定非営利活動法人富岡町3・11を語る会				
(カウンターパート)	3.11メモリアルネットワーク				
担当者名	松本愛梨	スタッフ人数	3人		

事業費総額(税込)	4,994,600円
CF事業枠	4,994,600円
その他資金	0円

事業目的	<p>福島復興の原動力となる「人のつながり」を作るために、地域を超え世代を超えて「語り伝える人(語り人)」を育てると共に、先進地(広島、長崎、沖縄など)に学びながら、育成プログラムを作成し、今後語り人活動が継続していくための基盤を構築する。</p>
事業全体の概要	<p>●富岡町3・11を語る会とは</p> <p>2011年3月11日、原発事故の発生により、着の身着のまま富岡町から避難した多くの人々は、福島県双葉郡川内村に向かった。しかし、川内村も危険区域に入るということで、福島県郡山市のビッグパレットという施設に避難をした。そこで日々暮らすうち、「ただ配られる物資をもらって食べて寝て、という生活をしてはいけな、何もしないでいたらせつなく助かった人も死んでしまう、何かしなければ」という思いから、支援に入っていた社協や県からの災害復興支援チームとともにボランティアセンターでの活動が始まる。これが活動の原点である。</p> <p>避難所閉所後に設置された社協内の避難者生活支援センターでの活動中、原子力発電所の事故は世界でも数少ない事例であるため、海外から「話を聞きたい」という人が多く訪れるようになった。その数はどんどん増え、センターの中だけでは対応できなくなり、2013年4月、富岡町社会福祉協議会の事業として町民から語り人を公募し活動を始めた。2015年「富岡町3・11を語る会」として独立。2016年NPO法人格を取得。語り部活動として一般の依頼と共に、教育旅行や企業研修の受け入れも始めた。除染作業を行っている企業での作業員向け研修の実施である。日本各地に出向いての口演も年に10数回に及ぶ。心の復興助成金を活用した、避難先における町民の交流拠点づくり、又避難先の住民との交流のきっかけをつくる企画教室も実施。さらに被災地の現状を多くの人に理解してもらうことを目的に町民による町民劇や朗読劇の公演も行っている。町民の思いを町民の目線で作る「映画」づくりも行い、様々な活動に関わる人々の世代と地域を越えた活動にも取り組んでいる。</p> <p>2021年からは外部の専門家(経済産業省のプログラムにて、経営コンサルタントを導入)による経営指導を受けながら、語り人活動と同時進行で活動継続のための団体基</p>

盤強化を進めている。

現在、会に登録している語り人は 18 名。富岡町、郡山市に拠点を置き、年間 7,000 名から 10,000 名の人々に、口演、被災地ガイドなどで、震災の状況や避難生活の現状、被災者としての思いなどを語り伝えている。

この活動は「人の世に起きたことは人の言葉で語り伝えなければならない。」という考えのもと、聞いている人が「自分事」として受け入れて、共に課題に向き合えるような話ができるようになることを目指している。

「語ること」→自他ともに「知ること」→「共に考える」「ともに行動する」人が増えるからである。語り人の活動は、人とのつながりを作ることであり、それは、震災により崩壊したコミュニティを新たに作り出すことになる。震災の体験を教訓として後世に伝承するとともに、語り人活動による「コミュニティの形成」を目指した事業を展開している。

●取り組むべき課題

1 町の現状

震災から 10 年が経過したが、町民の多くは町外で暮らしている。(※1 人口 12,097 名、富岡町内居住者 1,790 名) 4 年前に避難指示が解除されたが、まだ町の 12 パーセントの地域は帰還困難区域のままでバリケードがたっている。震災前に町内に居住し、町に帰還した元町民は 1,000 人に満たず、多くの人がいまだに町外・県外での避難生活を続けている。現在の住民のうち、元々町に住んでいた人以外は、除染や解体作業に従事する人、新たに町に移住した人と、少ない居住者の中でもそれぞれ立場が違い、町へのかかわり方も違う。さらに、町外に住む町民（避難先に居住：帰宅困難区域に指定されているため戻れない人。避難指示解除されていても戻らない人。）の「故郷喪失感」また故郷から切り捨てられるのではないかとという「焦燥感」帰還した町民との「断絶感」等が時間の経過とともに、深くなっていく。人々の心のバリケードを取り外すことが課題であるが簡単なことではない。

語り人活動によって、「町を知る」「避難した町民の思いを知る」「新たに住み始めた人の思いを知る」など、互いを理解することが可能になると考える。

※1：富岡町 HP より令和 3 年 11 月 1 日現在情報

富岡町人口：<http://www.tomioka-town.jp/soshiki/jumin/jumin/jinkou/2064.html>

富岡町内居住者：https://www.tomioka-town.jp/soshiki/jumin/jumin/hinansya_ninzu/4059.html

2 語り人活動の現状

本会の登録語り人は 18 名だが、65 歳以上の高齢者が 16 名、大学生 1 名（22 歳）、会社員 1 名（23 歳）と、語り人の高齢化が顕著である。高齢者は、「移動手段がない」、「年齢と共に人前で話すことが億劫になる」という理由であまり積極的に活動に参加しない方が増えてきている。

しかし、自分の体験を話すことが、災害時の行動や生き方、ものの考え方を教えることになり、聞いている人の役に立つという事、また、人前で話すという事が「生きが

い」となったり、共感を得られた時には心の安定につながるという事を、定期的に実施している勉強会などで確認している。

世代間交流会を開き、高齢者が講師となることで、高齢者は若い世代の人たちに伝える体験をし、自信と喜びを得ている。「語る」ことは、人との触れ合い、そして社会との関わりや「役割を持って生きている」ことを実感する良い機会となっている。

また、現在では語り人の話を聞いた人の「行動変容」についての追跡調査ができていないので、確かな振り返りが不十分である。今後カウンターパートとしての 3.11 メモリアルネットワーク (<https://311mn.org/>) の行う「追跡調査」を活用し、調査結果をフィードバックして語り人活動をブラッシュアップしていこうと考えている。

また、伝承活動は「被災者・被災地の支援ではない」という理由で、どこからも助成金が見つからないという現状がある。しかし、これまで記載したように「語り伝えること」は被災者・被災地にとって、風化を防ぎ生きがいにつながる大きな意味がある。また、それによって知る人を増やすことは「復興の原動力」を生み出すことにもなる重要な活動だと言える。

3 語り部育成事業の現状

現在、福島の複合災害（地震・津波・原子力災害）の伝承が、体験者の高齢化により風化してしまうことを防ぐために、伝承活動が必要だという認識から、県教育委員会、各町村、学校、福島県伝承館などで、語り部育成に取り組み始めている。

被災町村には、語り部が活動している所が少なくないが、実際に活動している語り部と教育機関が連携している例は少ない。

教育委員会の育成事業の推進案に対して、学校現場では、具体的な進め方がわからず、伝承館研修や講師を呼んで震災の話を聞くなどで終わらせていることが多い。

本会では、特に、若者の語り部を育成するにあたっては、教育委員会や学校と協議し、実際の伝承活動をしている団体として育成の指導に当たるような連携(※2)が実現することを目指す。

※2 連携の一例

総合的な学習の時間「震災について学び語ろう」というプログラムを設定し(①語り人の話をきく②現地見学③わかったこと・考えたことを発表する)語り人が講師をつとめている。

● パートナー協働プログラム対象事業

■コンポーネント①世代別「語り人」教室の開催と、交流の場の提供

1)こどもの語り人教室

・対象：小3～小6

・開講日：毎月二回（第1第3土曜日）4月～10月 全14回

地域（双葉郡内）の小学生を対象に、現在「暮らしの場」となっている自分たちの地域を知り、人に語り伝えるための「学びの場」を作る。

・募集・告知：教育委員会・小学校を通じた募集。地域施設へのチラシの設置(富岡わ

んぱくパーク)、子育てサポート団体との連携周知 (コトハナ)

2) 中高生の「語り人」教室

・対象：中1～中3、高1～高3

・開講日：長期休業中（8月夏3日間・冬3日間）

地域（双葉郡内）の中学生と高校生から希望者を募り、地域を知り、地域の課題を考え、語り合う中で、よりよい地域づくりにつながる発想などを語る伝える「学びの場」を作る。

・募集・告知：学校を通じた周知（各町村教育委員会、中学校、ふたば未来学園中学校・高等学校など）、県内地域探究活動学生への呼びかけ、SNS告知（Twitter、Instagramなど）

3) 若者の「語り人」教室の開講

・対象：大学生など。

・開講日：5月連休（3日間）、9月連休（3日間）

県内の若者から対象者を募り、富岡町に宿泊して（2泊3日）、複合の現状と課題さらに、伝承の意義を知り、自ら語る伝えるための「学びの場」を作る。

・募集・告知：大学を通じた周知（福島大学、日本大学等）、大学生受け入れ団体との連携協力呼びかけ（とみおかプラス、ふたばいんふおなど）、SNS告知（Twitter、Instagramなど）

4) 「語り人」実践スクールの開講 4月～10月 7回実施予定

・対象：福島県民

・開講日：毎月一回（第3日曜日）

県内から、双葉郡の現状を語り伝えたいと希望する人を集め、富岡町で、何を誰にどのように伝えるかを「学ぶ場」を作る。

*受講料は無料（団体負担）、宿泊費・交通費が発生するものについては自己負担とする。

・募集・告知：新聞メディアから募集告知、他語り人団体との連携協力、商業施設へのチラシポスター設置（スーパーや伝承館）、SNS告知（Twitter、Instagramなど）

5) 「語り人」による「伝承祭」(仮)を開催 12月実施予定

年1回、富岡町文化交流センターで、聴衆を集め、語り人の学びの成果を、多くの方が聞く機会を作る。双葉郡にとどまらず、広い範囲の方に福島の今を知ってもらう機会とする。伝承祭で語り人が話す「東日本大震災と原子力災害とは？福島の今、そして富岡町の現状」を聞いてもらい、知ることで、災害を「自分事」として受容し、これから自分たちは何ができるかなど、様々な世代の語り人の話をそれぞれの立場目線で考え、そして行動できるきっかけとしたい。また、聞いた人がこのことを他の人へ伝えることで、さらに多くの方が双葉郡への興味関心を持つような会とする。

当日の様子を録画し後日 Youtube へアップしアーカイブとしてみるができるようにする。(予定)

告知：新聞メディア告知、チラシ配布（広報紙への同封）、SNS 告知

6) 「語り人」交流会（年1回12月実施予定）

各世代別の教室に参加している「語り人」が、それぞれの世代と地域とのかかわり方などを話し合う場を作る。

■コンポーネント②「語り人」育成プログラムの作成

1) 講座内容検討会の実施と、育成プログラムの作成

各世代ごとに、語り伝えるために必要な「学び」を、「講義」「実技」「演習」などの段階に構成したプログラムを作成する。

*作成にあたっては、講師として各世代ごとの講座を担当する者（語り人の実践者、原子力災害の研究者、コミュニケーション育成の指導者、被災地域の人々など）が、講座の検討会を実施し、内容を検討する。

2) プログラム作成のための視察・調査

福島原子力災害は「自然災害」とは違う面がある。そのため、自然災害の被災地ではなく、伝承活動の先進地であり、次世代への継承を組織的に実践している「広島」「長崎」「沖縄」の状況を調査し、その結果を発表し本会の現状と比較分析をしながら、プログラムを修正する。

将来的にはこのテキストを含む人材プログラムを商品化し、全国の伝承活動団体等に販売し、資金調達に繋げたい。

【今年度】：調査及び結果の発表（※3）→検討→プログラムを作成→実践→検証→プログラム修正と完成。

【来年度】：プログラムのテキスト化
指導者育成

※3 富岡町の学びの森において発表。

対象：伝承活動に取り組む他団体、語り部として活動している人々、311メモリアルネットワーク、各大学等の研究者（福島大学、東北大学、早稲田大学、県伝承館）

●期待される効果

1 語り人活動の広がりとお継続

地域を超え、世代ごとに育成事業を展開することにより、語り人の次世代へのバトンタッチが可能になり、伝承活動の継続が実現する。

2 被災地復興の「見える化」

語り人活動が、シニア層だけでなく SNS を活用する若者層など様々な年代で活発になることにより、被災地の「今」が拡散されることで被災地への理解を促すことができるようになる。こうした情報の拡散によって理解が広がり、復興の原動力となる「人のつながり」が目に見える形で大きくなっていく。つながりが大きくなれば同じ志を持った人のネットワークが生まれる。小さな点が線になり、そして大き

	<p>な円となって、復興を後押しする力となる。</p> <p>3 語り人育成事業の普及 育成のプログラムを作成し普及させることで、各機関が連携して語り人を育成し、さらに、その指導的立場に立つ人材を育成する基盤ができる。</p> <p>4 資金調達 この活動を継続するために助成金のみならず自力運営を目指すことが必要だと考え、今年度（2021年12月～）経済産業省の支援事業を活用し、専門の経営コンサルタントをいれることにした（株式会社かたちなきもの）。この指導のもと経営基盤を強化し、収益を増やすことで継続的な運営が可能な組織づくりを目指す。コンサルの内容については、経営面の視点だけでなく、全体的な活動内容の整理、効果的な周知方法など幅広く助言をいただくことになっている。</p>
事業内容(事業種別 (コンポーネント) ごと)	
<p><u>コンポーネント①「語り人」教室の実施と、交流の場の提供</u></p> <p>1) こどもの語り人教室の開催 (14回)</p> <p>2) 中高生の「語り人」教室開催 (2回) 1回あたり3日間</p> <p>3) 若者の「語り人」教室開催 (2回) 1回あたり3日間</p> <p>4) 「語り人」実践スクール開催 (7回)</p> <p>5) 「語り人」による「伝承祭」(仮)</p> <p>6) 「語り人」交流会</p> <p><u>コンポーネント②「語り人」育成のプログラム作成</u></p> <p>1) 講座内容検討会の実施と、育成プログラムの作成</p> <p>2) プログラム作成のための視察・調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝承活動の先進地の視察および調査 ・ 調査結果の発表 ・ 調査結果を踏まえたプログラムの修正 	<p>双葉郡内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学3～6年生対象 ・ 中学1～3年生 ・ 高校1～3年生 <p>福島県内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学生対象 ・ 福島県民対象 <p>等 合計 2,000人</p>